

Jump 井坂しんや

E-mail CQW23040@nifty.ne.jp
ブログ <http://isaka.jcpweb.jp/>



住民の声を県政に届けた1年

本会議での代表質問

神奈川県議会第3回定例会の後半の議会が11月29日から始まりました。12月4日には、大山奈々子県議(横浜市港北区)が日本共産党を代表して本会議で質問をしました。

代表質問では、アスベスト対策の条例化、生活保護行政、特別支援学校の増設、原子力空母の母港化撤回などを取り上げました。



アスベスト対策強化を検討

前号でもアスベストのことを書きましたが、これから多くなるアスベストを含む建物の解体工事において、被害が生じないようにアスベスト対策の強化について条例制定を求めました。

とりわけ住民への周知の義務化、非飛散性アスベストの規制や立ち入り検査の権限強化、作業基準の厳格化などを求めました。

知事は、アスベスト条例の制定は考えていないと述べながらも、神奈川県生活環境の保全に関する条例の見直しに合わせて検討することを述べました。ぜひ前向きに進めてもらいたいと思います。

県営住宅居住者への対応

また、NHKでも報道されましたが、横浜市の県営千丸台団地で21年間過ごした52歳の女性のアスベスト被害について取り上げました。

この女性は2015年8月、原因不明の激しい咳と息苦しきから受診したところ即座に入院となり、のちに癌の一種である中皮腫と診断されました。

現在では両方の肺が真っ白になっているようですが、「自分と同じように苦しむ人がもう出ないよにとの思いから、2016年、県の住宅営繕事務所に要望書を持って2度3度通ったが、あまり動いてもらえなかった」と話されました。

それでも、アスベストの被害を少しでも早期に発見して治療することが必要だと、「中皮腫アスベスト疾患患者と家族の会」の支援を受けながら、団地内にチラシを掲示して昔からの居住者に健康診断を勧めたところ、30名の応募があり、そのうち4名の方は再検査が必要だったとのこと。

このような取組は本来県が責任をもって行うべきと指摘し、積極的に元居住者を把握し、健康診断に要する費用は継続的に県が負担することなどを求めました。

アスベストワークショップ

議会での質問の他、11月16日にNPO法人東京労働安全衛生センターの主催で開催された「アスベストを知るワークショップ」に参加しました。

東京労働安全衛生センターの外山尚紀さんから「アスベストとは何か?その危険性について」と題してアスベストについての基本的な内容を聞いた後、ワークショップとして「アスベストマッピング」「目で見えるアスベスト」を行いました。

アスベストマッピングでは、横須賀市内の工業団地に訪れ、アスベストを含んだ建材がどこに使われているかを実際に見て確認する作業を行いました。

工業団地内の各工場では波型スレート(アスベストを含んだ建材)を使用し



アスベスト含有の波型スレート